

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 毎年6月に開催
 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
 期末配当金 毎年3月31日
 中間配当金 毎年9月30日

単元株式数 1,000株
 株主名簿管理人 中央三井信託銀行(株)
 東京都港区芝三丁目33番1号

郵便物送付先 〒168-0063
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 中央三井信託銀行(株) 証券代行部
 Tel 0120-78-2031(フリーダイヤル)

取次窓口 中央三井信託銀行(株)本店および全国各支店
 日本証券代行(株)本店および全国各支店

公告方法 当社ホームページに掲載
 上場証券取引所 国内：東京・大阪 国外：ニューヨーク

■ 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
 なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設された株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行(株)にお申出ください。

■ 未払配当金の支払について

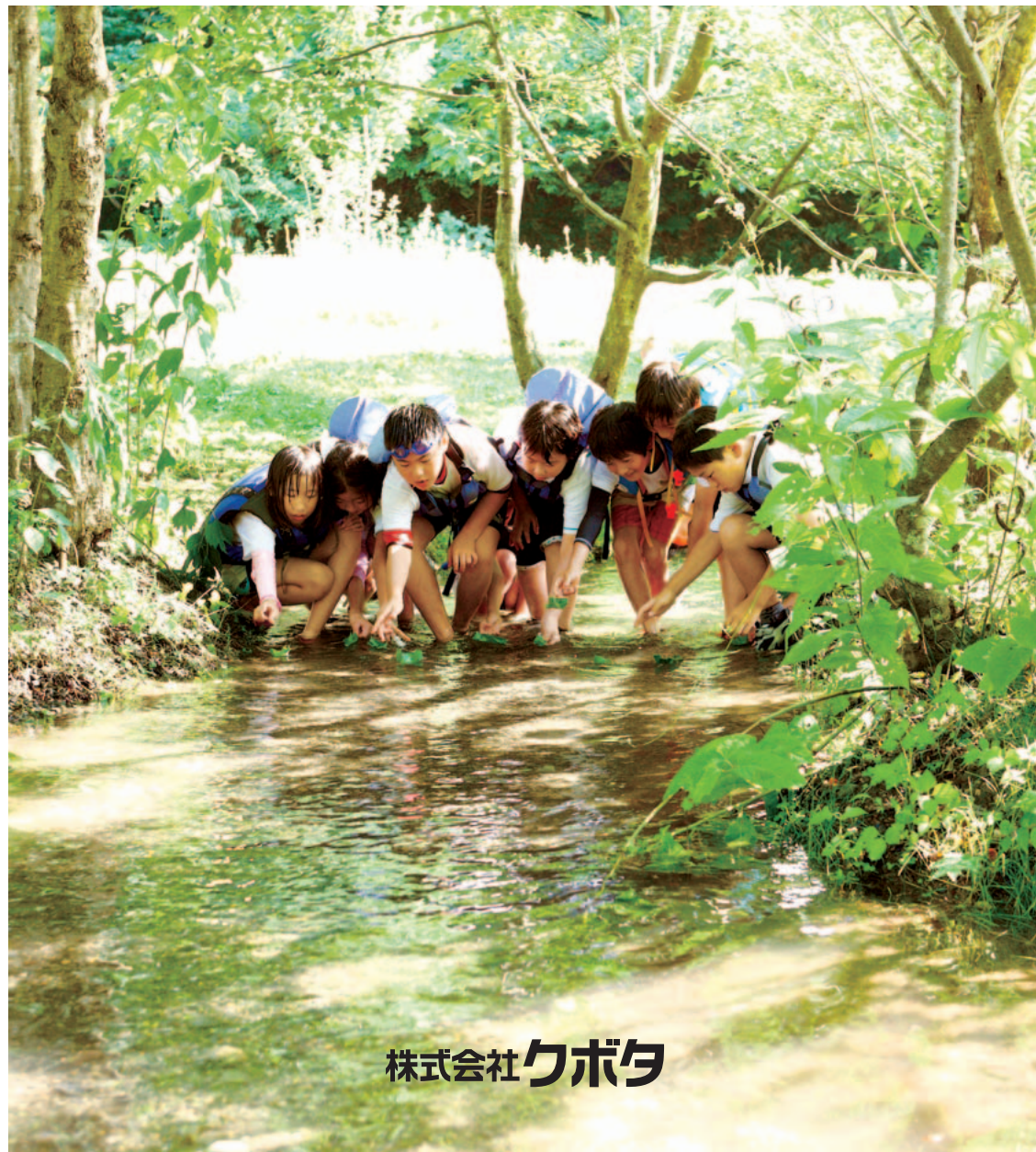
株主名簿管理人である中央三井信託銀行(株)にお申出ください。

■ 配当金計算書について

配当金支払い時にお送りしている「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねています。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。
 なお、本年より、配当金領収証にてお受取りの株主様につきましても、配当金支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。

租税特別措置法の平成20年改正(平成20年4月30日法律第23号)により、平成21年1月以降にお支払いする配当金について株主様あてに配当金額や源泉徴収税額等を記載した「支払通知書」を送付することが義務づけられました。

第121期 中間
 平成22年4月1日～平成22年9月30日



株主の皆様へ

株主の皆様には格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

クボタ通信(第121期中間)をお届けするに当たり、ご挨拶を申し上げます。

当社は、株主の皆様やおお客様のご支援に支えられ、平成22年4月に創業120周年を迎えることができました。これからも豊かな生活と社会の基盤を支える製品・技術・サービスを通じて、社会の発展と地球環境の保全に貢献してまいります。

当上半期(平成22年4月1日～平成22年9月30日)のクボタグループの業績につきましては、売上高は、前年同期比44億円(1.0%)増加して4,490億円となりました。

国内売上高は、機械部門、その他部門が売上を伸ばしましたが、水・環境システム部門、社会インフラ部門が減収となり、全体では38億円(1.7%)減の2,248億円となりました。海外売上高は、機械部門の増収幅が他部門の減収幅を上回り、83億円(3.8%)増の2,243億円となりました。

営業利益は、機械部門の増収や全社的なコスト削減の進捗などにより、前年同期比100億円(30.3%)増加して432億円となりました。また、税金等調整前純利益は、98億円(29.3%)増加して430億円となり、法人所得税は、147億円(実効税率34.2%)の負担となりました。非支配持分控除前純利益は、63

億円(27.7%)増加して289億円となりました。当社株主に帰属する純利益は、前年同期を64億円(33.1%)上回る257億円となりました。

なお、中間配当金につきましては、去る11月2日の取締役会において、前期の中間配当金と同額の1株当たり7円とし、本年12月2日を支払開始日とすることに決定させていただきました。詳細は、「中間配当金のお知らせ」(12頁)に掲載しておりますのでご参照ください。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

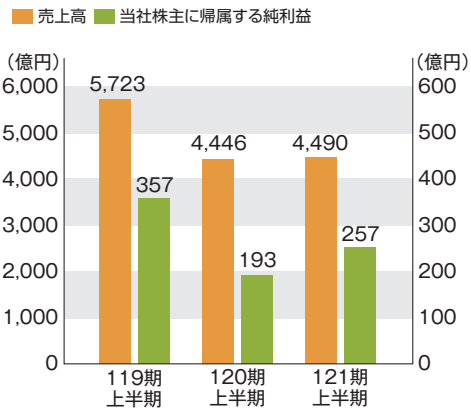
平成22年12月



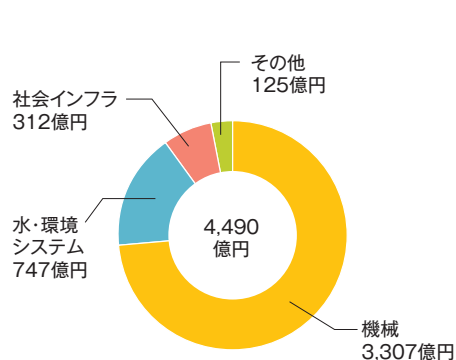
代表取締役社長

益本 康男

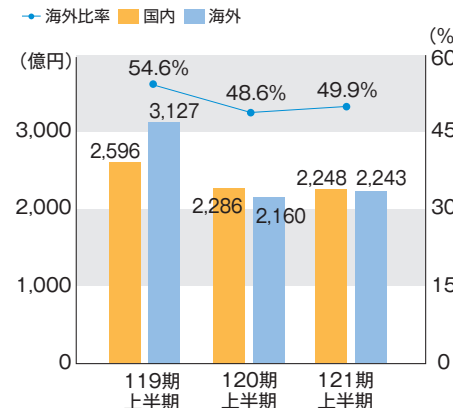
[連結]売上高・当社株主に帰属する純利益



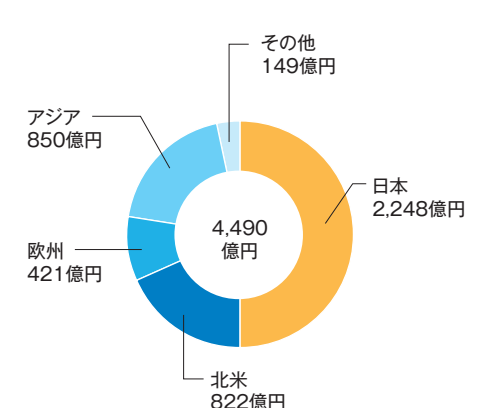
セグメント別連結売上高



国内・海外別連結売上高



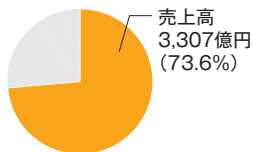
地域別連結売上高



事業の概況

機械部門

主要製品 農業機械および農業関連製品、エンジン、建設機械等



当部門の売上高は、前年同期比6.8%増加して3,307億円となり、売上高全体の73.6%を占めました。

国内売上高は、4.2%増の1,210億円となりました。主力の農業機械は、需要が底堅く推移し増収を確保しました。また、需要が回復基調に転じた建設機械やエンジンも大幅に売上を伸ばしました。

海外売上高は、8.3%増の2,097億円となりました。北米では、カナダが不振でしたが、米国ではトラクタが売上を伸ばし、エンジンも需要の回復を背景に大幅な増収となりました。欧州では、市場の好転により建設機械、エンジンが売上を急速に回復させ、大幅な増収となりました。アジアでは、主力の農業機械は天候不順や米価低迷などにより小幅な伸びにとどまりましたが、建設機械が大幅増収を記録しました。

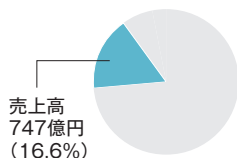
当部門のセグメント利益は、増収やコスト削減などにより42.0%増加して466億円となりました。



ウエルスター ROYAL VIPプラス NSD8

水・環境システム部門

主要製品 パイプ関連製品(ダクトイル鉄管、合成管、バルブ等)、環境関連製品(各種環境プラント、ポンプ等)



当部門の売上高は、前年同期比17.6%減少して747億円となり、売上高全体の16.6%を占めました。

国内売上高は、11.7%減の684億円となりました。ダクトイル鉄管、合成管などのパイプ関連製品は公共投資縮減などにより減収となり、環境関連製品も上下水エンジニアリングを中心に売上を落とし



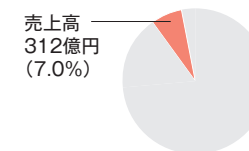
ダクトイル鉄管

した。海外売上高は、中東向けダクトイル鉄管の販売減や、バルブ、ポンプなどの減収により52.2%減の63億円となりました。

当部門のセグメント利益は、減収や原材料高の影響などにより65.1%減少して21億円となりました。

社会インフラ部門

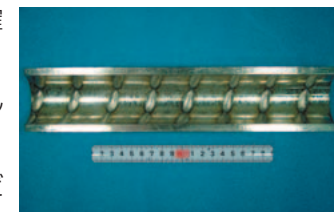
主要製品 素形材、鋼管、自動販売機、電装機器、空調機器



当部門の売上高は、前年同期比2.7%減少して312億円となり、売上高全体の7.0%を占めました。

国内売上高は、1.6%減の233億円となりました。空調機器、電装機器が売上を伸ばし、素形材や自動販売機も前年並みの売上を確保しましたが、鋼管が大幅に売上を落としました。海外売上高は、素形材が欧州や中東で売上を落とし5.9%減の80億円となりました。

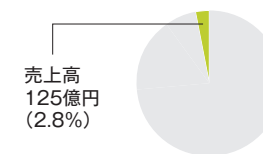
当部門のセグメント利益は、減収や競争激化などにより15.2%減少して19億円となりました。



反応管 X-MERT

その他部門

主要製品 工事、各種サービス事業等



当部門の売上高は、前年同期比2.3%増加して125億円となり、売上高全体の2.8%を占めました。工事が減収となりましたが、その他の事業が売上を増加させ、部門全体では増収となりました。

当部門のセグメント利益は、31.5%減少して8億円となりました。

※1. 従来、「内燃機器関連」、「産業インフラ」、「環境エンジニアリング」、「その他」としていた事業区分を前期末より、「機械」、「水・環境システム」、「社会インフラ」、「その他」に変更しています。

※2. 文中における金額は、表示単位未満の端数を四捨五入して表示しています。

水のクボタとしての社会的使命を果たすために

1893年に国内初の水道用鉄管の製造を手がけて以来クボタは、バルブやポンプなど水道関連事業を拡大してきました。培われた水処理技術は、下水処理分野へと展開され今では、上下水道に関わる世界で唯一の水関連製品の総合メーカーです。人間の命の源であるとともに、社会のライフラインである水。水資源の重要度が更に高まるこの時代にクボタが果たすべき責任はますます大きくなっています。

安全な水の供給

地域事情に応じたライフラインの整備に取り組んでいます。



つぎの100年を支える新耐震管
GENEX

日本 老朽化した水道管の更新をトータルに支援

日本の上水道は、老朽管の更新・耐震対策や、管路技術の継承などが大きな課題となっています。クボタは次世代耐震管の開発をはじめ、水道管理の全てにわたるハードとソフトを提供。日本のライフラインの品質向上に幅広く貢献しています。

海外 クボタの水技術を活用した安全な水の供給

アジアの新興国では水質汚濁・濁水が進んでいます。クボタはダクタイル鉄管、ポンプ、バルブなどの販売に加え、今後は、各国現地メーカーと協力して製品を開発・供給。水運営・サービスにも取り組み、安全な水の供給に貢献していきたいと考えています。

■ クボタの水関連製品

セラミック膜ろ過システム

浄化槽

バタフライバルブ

ソフトシールバルブ

取水ポンプ

ポンプ

ダクタイル鉄管

液中膜ユニット

下水汚泥濃縮機

下水汚泥焼却炉

下水汚泥脱水機

浄水場

下水処理場

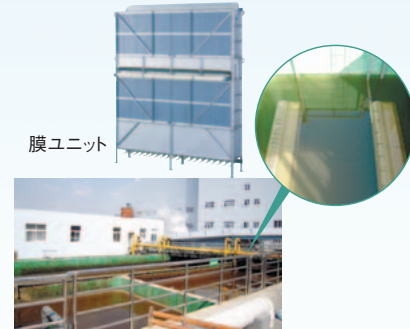
蒸発



水資源の再生

液中膜技術を核にした水再生システムを提案しています。

世界中で採用されているクボタの液中膜は、高度な処理水質と優れた耐久性、シンプルな処理システムとメンテナンスの容易さが評価され、深刻な水環境問題に直面している中国でも活躍が期待されています。今後は液中膜を核とした排水・下水処理設備の建設、操業など幅広い取り組みにより、水資源の再生に貢献していきます。



中国・ゴミ焼却発電所の汚水処理設備に導入された、クボタ液中膜

水環境の改善

排水処理プラントによる地域インフラの整備に取り組んでいます。

クボタは排水処理プラント事業の一環として、浄化槽の導入を推進。一連の下水処理フローをパッケージ化したクボタの浄化槽は、短い工期で高度な水処理性能を提供できるため、人口散在地域の工場、病院、住宅開発地などで大きな力を発揮します。今後は河川などの水源汚染が進むアジアの水環境改善に積極的に寄与していきます。



ベトナム・ホーチミン市の病院に設置されたクボタ浄化槽

タイの子会社を統合・アジア事業の更なる拡大へ

2010年8月に、タイ王室系大手企業「サイアムセメントグループ (SCG)」との合併会社で、トラクタ・コンバインの販売などを行う子会社「ザ・サイアムクボタイ

ンダストリー」と製造子会社「サイアムクボタトラクター」の2社を統合し、新会社「サイアムクボタコーポレーション (SKC)」を設立しました。今後は、タイでの事業の更なる拡大を目指すとともに、新会社をアジアでの総合農業機械事業の拠点に位置づけ、クボタブランドの確立を目指します。将来的には、水・環境システム事業などのアジア展開の拠点として活用することも視野に入れています。



タイ バンコクで行われた設立記念式典
(左からSKC 木股社長、当社 益本社長、SCG カン社長、SKC ベラチャイ上級副社長)

中国に小型建設機械の製造会社を設立

急速な経済成長が続く中国における建設機械の需要は、今後も伸長が見込まれ、将来、世界最大の市場になると予測されています。当社は、小型建設機械の製造会社「久保田建機 (無錫) 有限公司」を設立することといたしました。2012年4月に

量産を開始し、2018年には約1.4万台の生産を目指します。中国での現地生産を本格化することにより、①コスト競争力の強化、②為替変動リスクの回避、③需要拡大への供給力増強、を図ります。現地生産と販売拠点の拡充によって事業を拡大し、小型建設機械世界NO.1メーカーとして、中国市場でも確固たる地位を築いてまいります。



中国で使用される当社のミニバックホー

アジア共通設計のコンバインを新発売

国内農業は米価の下落、燃油の高騰などにより生産コストの低減が求められており、農業機械に対する低価格ニーズが強くなっています。そのような中、当社は、お客様の生産コストの低減に貢献するため、高い基本性能と耐久性を確保しながらも、機能を絞りこんだシンプルな設計により、現行国内モデルよりも低価格を実現したアジア共通設計のコンバイン「エアロスターワールド」を2010年9月に発売しました。アジア各国で通用するコンバインの必要条件である、①高い基本性能、②耐久性、③シンプル・低価格、を開発コンセプトにした新製品です。



エアロスターワールド WR572

クボタeプロジェクト:インドに井戸1基目が完成

当社グループは「食料」「水」「環境」分野における社会的課題の解決に向けて、社会貢献活動「クボタeプロジェクト」に取り組んでいます。このプロジェクトの新しいテーマとして、「海外の水環境改善」への取り組みを開始しました。2010年は「インド井戸建設計画」で、水不足に苦しむインド・ビジャプールの市に3基の井戸を寄付することとしました。そのうちの1基が2010年7月末に完成し、村の方々からは喜びの声をいただいています。世界中には、安全な水を継続的に利用することができない人が約9億人いると言われていいます。今後もこのような課題解決のための支援を続けてまいります。



完成した井戸と村人たち (インド・ビジャプールの市)

省エネ・環境負荷低減のニーズに応えるトラクタを発売

2010年7月に、省エネ・環境負荷低減のニーズに応える大型トラクタ「ニュースーパーシナジーシリーズ」と、中型トラクタ「キングウェルアールシリーズ」を発売しました。省エネ運転をサポートする機能の追加に加え、パワクロを改良したことで、走行騒音、振動を低減し快適性を高めました。

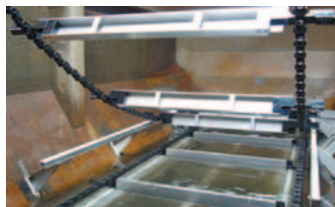


キングウェルアール KL34RHPC

ノッチチェーン式汚泥かき寄せ機を納入

汚泥かき寄せ機とは、下水処理場の沈殿池で下水から分離した汚泥をかき寄せて排出するための装置です。

当社は、維持管理性の向上、徹底した低コスト化、リサイクル性の向上を目指してノッチチェーン式汚泥かき寄せ機を開発しました。このような独自性から、新潟県長岡市中央浄化センターで採用され、運転が開始されました。



ノッチチェーン式汚泥かき寄せ機

米国技能コンクールを初開催

2010年9月、「第1回クボタUSA技能コンクール」を米国で開催しました。米国の製造拠点であるクボタマニュファクチャリングオブアメリカ(ジョージア州)とクボタインダストリアルイクイップメント(同州)から総勢85名が参加し、技能を競い合いました。今後もこの大会を継続し、海外におけるモノづくり魂の風土醸成を目指してまいります。



製品検査



組立

環境省より『エコ・ファースト企業』に認定

2010年5月31日、当社は地球温暖化防止活動など4項目の環境保全に関する取り組みを約束しました。その結果、環境大臣より先進性が認められ、「エコ・ファースト企業」として認定を受けました。今後も「食料」「水」「環境」の分野で、社会の発展や地球環境の保全に貢献し、環境経営を更に追求してまいります。



クボタeプロジェクト:耕作放棄地の再生支援

社会貢献活動「クボタeプロジェクト」の取り組みとして、耕作放棄地の再生支援を全国各地で展開しています。2010年度は、7月に千葉市若葉区野呂町、8月に青森県弘前市の耕作放棄地にて再生作業を実施しています。当社グループは今後も日本農業の活性化のお手伝いを続けてまいります。



耕作放棄地耕起の様子(千葉市若葉区野呂町)

クボタスピアーズ 関西初のラグビー祭でファンと交流

2010年6月5日、トップリーグ加盟のラグビーチーム・クボタスピアーズによるファン交流イベント「ラグビー祭」を堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンターで開催しました。千葉県船橋市を拠点としているスピアーズが、交流の少なかった関西のファンの方々と触れ合うために企画し、実現したもので、当日は約500人のファンが選手との腕相撲大会やタックル体験などを楽しみました。



連結財務諸表

連結損益計算書の要旨

(単位 百万円)

科目	平成23年3月期第2四半期 (平成22年4月1日～ 平成22年9月30日)	平成22年3月期第2四半期 (平成21年4月1日～ 平成21年9月30日)	増減
売上高	449,046	444,634	4,412
売上原価	325,395	326,598	△ 1,203
販売費及び一般管理費	80,059	84,637	△ 4,578
その他の営業費用	423	267	156
営業利益	43,169	33,132	10,037
その他の収益(△費用)純額	△ 128	155	△ 283
税金等調整前純利益	43,041	33,287	9,754
法人所得税	14,703	11,011	3,692
持分法による投資損益	530	334	196
非支配持分控除前純利益	28,868	22,610	6,258
非支配持分帰属損益(控除)	3,158	3,297	△ 139
当社株主に帰属する純利益	25,710	19,313	6,397

連結貸借対照表の要旨

資産の部

(単位 百万円)

科目	平成23年3月期第2四半期末 (平成22年9月30日現在)	平成22年3月期末 (平成22年3月31日現在)	増減
流動資産	769,758	820,828	△ 51,070
投資及び長期金融債権	319,106	321,724	△ 2,618
有形固定資産	216,066	220,893	△ 4,827
その他の資産	52,445	45,588	6,857
資産合計	1,357,375	1,409,033	△ 51,658

負債及び純資産の部

(単位 百万円)

科目	平成23年3月期第2四半期末 (平成22年9月30日現在)	平成22年3月期末 (平成22年3月31日現在)	増減
流動負債	412,595	440,238	△ 27,643
固定負債	271,808	297,176	△ 25,368
負債合計	684,403	737,414	△ 53,011
純資産	672,972	671,619	1,353
負債及び純資産合計	1,357,375	1,409,033	△ 51,658

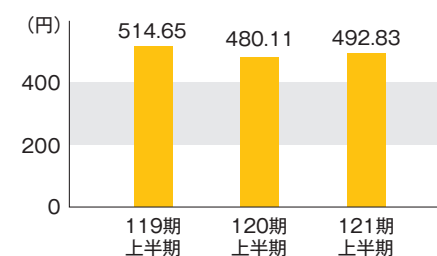
連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位 百万円)

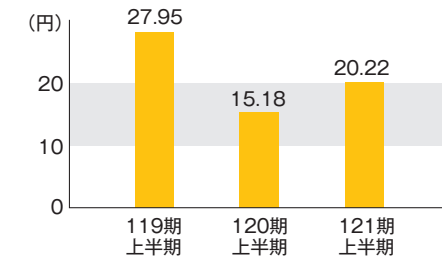
項目	平成23年3月期第2四半期 (平成22年4月1日～ 平成22年9月30日)	平成22年3月期第2四半期 (平成21年4月1日～ 平成21年9月30日)	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	53,219	41,886	11,333
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 28,713	△ 20,609	△ 8,104
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 30,453	2,043	△ 32,496
為替変動による現金及び現金同等物への影響	△ 1,804	1,535	△ 3,339
現金及び現金同等物の純増減(△減少)	△ 7,751	24,855	△ 32,606
現金及び現金同等物期首残高	111,428	69,505	41,923
現金及び現金同等物期末残高	103,677	94,360	9,317

※1. 四半期連結(連結)財務諸表は米国基準に基づいて作成されています。
 ※2. 金額は表示単位未満の端数を四捨五入して表示しています。

連結一株当たり株主資本



連結基本的な一株当たり 当社株主に帰属する純利益



中間配当金のお知らせ

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| (1) 中間配当金決議取締役会 | 平成22年11月2日(火曜日) |
| (2) 中間配当金 | 1株につき7円(総額 8,905,325,352円) |
| (3) 中間配当金の基準日 | 平成22年9月30日 |
| (4) 支払開始日 | 平成22年12月2日(木曜日) |
| (5) 配当原資 | 利益剰余金 |

配当金口座振込のご案内

当社の配当金は、金融機関への「口座振込」でもお受取りいただけます。
配当金領収証にてお受取りの株主様には、より安全・確実な、

◆ ゆうちょ銀行貯金口座への振込 ◆ 銀行預金口座への振込

をおすすめします。この機会に是非、ご利用ください。

「口座振込」をご希望の株主様は、

証券会社に口座のある株主様 お取引の証券会社にお申出ください。
特別口座の株主様 中央三井信託銀行にお申出ください。

特別口座から証券会社の口座への振替のご案内

平成21年1月の株券電子化実施時に証券保管振替機構(ほぶり)を利用されていない株主様の株式は、中央三井信託銀行に開設する「特別口座」で管理されています。「特別口座」は株式を売買するための取引口座ではありませんので、売却するにはあらかじめ証券会社に口座を開設し、株式の振替手続きをする必要があります。お手続きにつきましては、中央三井信託銀行にお申出ください。

証券会社の口座への振替方法

- ① 証券会社に口座を開設
- ② 中央三井信託銀行に株式の振替を申請
- ③ 特別口座から証券会社の口座に振替

株主様のご所有株式の一部または全部が「特別口座」で管理されている場合があります。いま一度、ご所有株式数のご確認をお願いします。

● お申出・お問合せ先 特別口座管理機関 中央三井信託銀行(株) 証券代行部
Tel 0120-78-2031 (フリーダイヤル)

役員

取締役

代表取締役社長	益本 康男
取締役会長	幡掛 大輔
取締役副会長	林 守也
代表取締役専務執行役員	奈良 廣和
代表取締役専務執行役員	富田 哲司
取締役常務執行役員	坂本 悟
社外取締役	水野 讓
社外取締役	カン・トラクルホーン

監査役

常勤監査役	西口 芳治
常勤監査役	福田 俊弘
常勤社外監査役	森下 雅夫
社外監査役	末川 義郎
社外監査役	若林 正伸

執行役員

専務執行役員	篠原 栄作	執行役員	福井 哲
専務執行役員	木股 昌俊	執行役員	飯田 聡
常務執行役員	利國 信行	執行役員	木村 茂
常務執行役員	北岡 正好	執行役員	田中 政一
常務執行役員	塩路 伸世	執行役員	伊藤 雄二郎
常務執行役員	鳥越 猛	執行役員	木村 雄
常務執行役員	岩部 秀樹	執行役員	佐々木 真治
常務執行役員	岩名 勝行	執行役員	松木 弘志
執行役員	吉井 隆司	執行役員	北尾 裕一
執行役員	宇治 耕吉	執行役員	諏訪 国雄
執行役員	久保 俊裕	執行役員	黒澤 利彦
執行役員	小川 謙四郎	執行役員	川上 寛

会計監査人

有限責任監査法人トーマツ

会社概要

社名	株式会社クボタ (KUBOTA CORPORATION)
創業年月	明治23年 2月
設立年月	昭和 5年12月
資本金	84,070,280,304円
発行済株式総数	1,285,919,180株
株主数	49,274名
従業員数	連結 25,422名(就業人員) 単独 9,558名(就業人員)
本社	〒556-8601 大阪市浪速区敷津東一丁目2番47号 Tel(06)6648-2111 Fax(06)6648-3862
東京本社	〒103-8310 東京都中央区日本橋室町三丁目1番3号 Tel(03)3245-3111 Fax(03)3245-3822
ホームページ	http://www.kubota.co.jp/